

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 収穫を楽しむ～ソラマメ・タマネギ～／岡崎市大西保育園

園で野菜を育てる時は、子どもたちにどのような「科学する心」が育って欲しいと、願っていますか？また、どのような子どもたちの姿を大切にしていますか？今回は、大事に育ててきた野菜の収穫を通して、子どもらしい疑問をもち、感じたこと気付いたことを友達や保育者と共有している事例をご紹介します。



### ○ 野菜を育てよう／3・4・5歳児

#### ✦ 取り組みのねらい

当園は毎年様々な野菜を育ててきた。継続してきたことにより、子どもたちにとって、野菜は身近な物となり、生長を楽しみにしたり、収穫を期待したりするようになってきた。どの子どもにとっても野菜が身近な物となり、それぞれの野菜が「どのように育っていくのか」「どのように実がなるのか」など実際に関わることで、自分たちが口にしていく物について少しでも興味をもつことができるようにしたいと考えた。その中で自分なりに考えたり、予想したり、調べたりすることができるようにしたいと考えた。



#### ✦ 空豆の収穫

- 園庭にプランターを置き、1月中旬からソラマメを育てた。
  - 子ども達は小さなソラマメを毎日見たり触ったりして気にしている。
  - 保育者の願い** ソラマメの収穫では、自分で探してソラマメの鞘を収穫し、鞘の付き方を見る事ができるようにとする。また、収穫した鞘を剥いて、ソラマメの実の付き方に興味をもてるようにする。
- 
- ソラマメの鞘を探す子どもたち。夢中になって探すうちにソラマメの葉をかき分けて探さないと鞘が探せない事に気づき、苗をかき分けて探し始める。両手いっぱいソラマメを持ってくる。/
  - 保育者に声をかけられ鞘を剥こうとするが、鞘が硬くてなかなか剥けない。「どうやって剥くの？」「硬くて剥けん」「硬いなあ。剥けんよ」と苦戦している。
  - Aちゃんが剥けた。「剥けた！」の声に「どうやってやった？」「どこどこ？」「わー！剥けとる！」と反応がある。Aちゃんにコツを教えてもらい、他の子どもたちも次々と剥く事ができていった。
  - 剥きながら「硬いなあ。」「なんだこれ？」「こんな風なんだ。」「なんかフワフワだ



ね」「豆ってツルツルしとるね」とソラマメや鞘鞘の様子を見てつぶやきながらソラマメを取り出している。

- Bちゃんが「これって何？豆のここのところ？」と鞘を手を持ち保育者に質問に来る。豆と鞘をつないでいる部分を指差している。
- 保育者は、「分からんなあ」と答える。
- Bちゃんは納得いかない顔をしてじっとソラマメの鞘を見ながら保育者から離れて行った。
- Cちゃんが「これ何？」と同じ場所を指差して友達と話している。「豆のここ、なんだろ？赤ちゃんの豆かな？」と言うとDちゃんが「赤ちゃんの豆？これって種じゃない？ソラマメの」「そっか。豆の種か。ふーん。（納得したのか今度は鞘の内側が気になって）でもこれなんか布団みたい。前のあれ、あれ、本見たやつ。ソラマメ君のさあ」「ほんとだね。絵本のふわふわベットと一緒にだね」と笑い合いながら再びソラマメの収穫へと戻って行った。



## 振り返り

保育者の反応により「知りたい気持ち」が断ち切られてしまったのではないかと保育者が事前準備をして知識を得ていたり、図鑑を用意していたり、余裕をもって関わりBちゃんの言葉を受けて一緒に観察したり、調べたりする援助をしていればBちゃんももっと「なんだろう?」「どういうものだろう?」「どうしてあるのだろう?」という思いがもてたように思う。

## ✿ タマネギの収穫

- 園庭のプランターで、昨年の11月中旬から大切に育ててきたタマネギ。土の中からタマネギの実が飛び出て見えるようになり、子どもたちもいつ収穫するのかと気にするようになった。

- **保育者の願い** タマネギの収穫を通してタマネギがどのようにできているのか興味をもてるようにしたいと考えていた。

- タマネギの緑の部分をもって引っ張るが、なかなか抜けず保育者に抜けないことを伝えてくる。
- 保育者が、援助し一緒に引っ張ってみる。二人で引っ張るとメリメリと言う感じでタマネギが抜ける。  
Aちゃん：「ワー！こんなに髭みたいに根っこが生えとる！」  
Bちゃん：「こんなところに根っこが生えるの？」  
Cちゃん：「こんなにいっぱい生えてる！」と、想像以上に根が生えていた事に驚く声が多く聞かれる。  
Dちゃん：「タマネギって根っこがあるんだ！」  
Eちゃん：「こんなにポーポーに生えてるよ」とタマネギに根がある事を知らず、驚く姿も見られた。
- 保育者と子どもたちで、タマネギも植物で生きているから、根っこで水を飲んで大きく育っている話をする。
- 「タマネギも野菜の仲間なんだ!」「いっぱい出来なくて1個だけしか出来ないんだね」と他の野菜との生り方の違いに気付く声があった。
- 保育者は、タマネギで皆が食べているのは葉っぱの部分であることを伝える。
- 「葉っぱなのに緑じゃないの!」「葉っぱはここだよ。ここは実だよ」「葉っぱじゃないよ」と自分の考えを友達に伝え、考え合う姿が見られる。
- 保育者は、印刷したタマネギの名称について書かれている物を準備して見せた。（球の部分が葉である事が書いてある）
- 「ほんとだ。葉っぱって書いてある。葉っぱなんだ」



## 振り返り

夏野菜の生長を毎日楽しみにして観察をしてきたことで、野菜は苗から枝葉が出て花が咲き実が生るというイメージをもっている子どももいた。今回の玉ねぎは今までにない野菜のでき方で、子どもたちも戸惑う姿が見られたが、それが興味を深めることにも繋がり、疑問や気付きを伝え合い、考え合うことができた。

また、いつも食べている部分が葉で、色も緑ではないことに最初混乱したり、驚いたりしたようであった。玉ねぎの名称の印刷物を見て「そうなんだ」と納得する子どもが多くいた。このことも、野菜を育てることへの興味を深めることに繋がったと思われる。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」